

## 材料&道具



### 参考資料:

『おまめの豆本つくり』柴田尚美著

白泉社刊 2007年

『手製本を楽しむ』梶折久美子著

大月書店 1984年刊

『製本工房。美篤堂とつくる文房具』

美篤堂 2010年

※表紙の裏打ち方法などは本を参照

### 材料

中身の紙(上質紙) 3.6×5cm…10枚  
見返し紙(色画用紙くらいの厚さ) 3.6×5cm…2枚  
表紙布(木綿布に裏打ちしたもの)  
花切れ…7mm幅2枚  
しおりひも…7cm  
表紙用ボール紙(厚さ1mmの厚紙)  
今回はいらなくなった本の函を利用  
4×2.5cm…2枚  
4×0.7cm…1枚  
寒冷紗…3×2.5cm (和紙でも代用可)  
木工用ボンド

### 道具

刷毛(平筆などでも可)  
裁縫用ヘラ  
クリップ  
カッター・カッター台

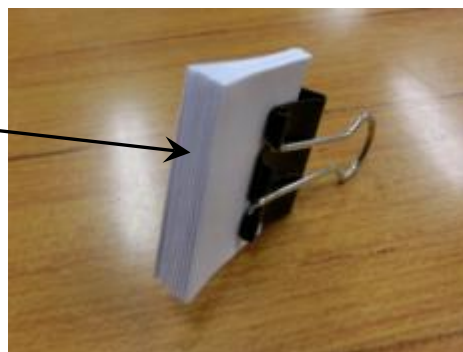
## 作り方

① 中身の紙と見返し紙を二つ折りにします。



②きれいに紙の折り目を揃え、折りと逆の側をクリップで止めます。

折った側(背)



③ 背固め

折った紙のすきまを埋めるような感じでボンドを塗りこみます



④見返し紙の折った側の片面にボンドをつけます。



⑤本体の両側に、向きを揃えて見返し紙を貼り付けます。



⑥背に寒冷紗をしっかりと貼り付けます。



⑦寒冷紗の余った部分にボンドをぬり、見返し紙に貼り付けます。



⑧背の上部にボンドをつけ、しおりひもを貼ります。



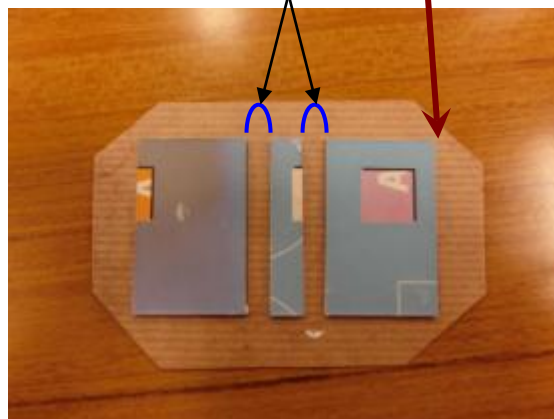
⑨背の上下に花布を貼り付けます。  
(花布の糸がはさんでいる部分を背よりほんの少し上下に出します。)



上下に少し出します。

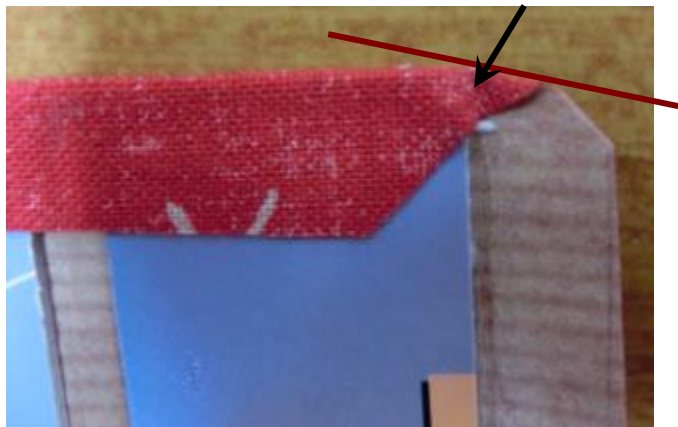
⑩ ボール紙にボンドを塗り、表紙布の裏に貼り付けます (溝の幅は 5mm です)。  
さらに、表紙の四隅をボール紙角から 3mm 程度残して、斜めにカットします (スタンプラリーではあらかじめカットしていました)。

溝の幅 5mm

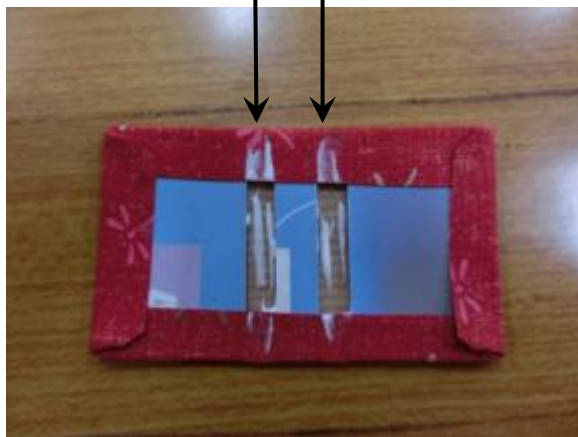


⑪ まず、表紙の上下を先に貼り付け、次に（爪で内側に折り込むように）角の処理をします。続いて左右を貼り付けます。

左右が貼り付けやすいよう、爪で角を少し押し斜めに



⑫ 溝の部分にボンドを塗ります。



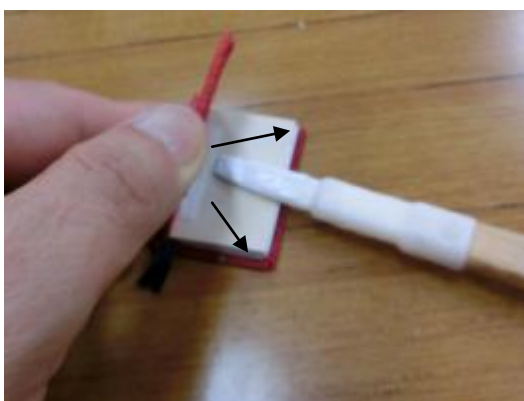
⑬ 表紙の左側に中身をのせ、右側をかぶせます。



⑭ ヘラで溝をつけ、表紙と中身をしっかりとくっつけます。



⑮ 表紙を半開きにして、一番外側の見返しにボンドを薄く放射線状にのばしてぬります。表紙を閉じ貼り付け、反対側も同じく貼ります。はみだしたボンドは急いでふきとります。



完成!!



～おことわり～

スタンプラリーでは20分程度で作ることができるよう、のりをすべて同じボンドにするなど、工程を省略しました。本格的に作りたい場合は、ぜひ参考資料を読んでください。

※参考※

豆本の表紙（表紙布：木綿布に裏打ちしたもの）について

[東急ハンズでは\(製本工房リーブルが卸している\)裏打ちした絹布](#)も売っていますが、今回は、木綿のプリント布に紙を貼る「裏打ち」加工した表紙布を使用しました。

「裏打ち」とは着物などの「洗い張り」のように、

1) 板に布を水張りする

2) 布の上にうすくのり(大和ののりとボンドをまぜ、薄めたもの)をひいた紙(和紙やハترون紙)を貼る

3) 乾かす

といった作業です。

少し面倒な作業ですので、各種の本を見ながらやってみると、わかりやすいのではないかと思います。

裏打ちの方法は枡折久美子さんの『[手製本を楽しむ](#)』『[えほんをつくる](#)』などを参考にしています。

最近の本では、

柴田尚美『[おまめの豆本づくり](#)』白泉社、『[製本工房。美篤堂とつくる文房具](#)』河出書房新社などにも載っています。

表紙は、紙を使ってもできますが、その場合は見返し紙に使うような少し丈夫な紙(画用紙より質のよい感じ)を使い、溝を作るとき、へらでこすりすぎないように注意しながら行ってください。